

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ア	地球温暖化防止対策の推進	施策	本県の実情に応じた温暖化防止対策の推進
			施策の小項目名	適切な森林管理及び県民主導による緑化
主な取組	造林事業			
対応する主な課題	温室効果ガス排出量の大部分を占める二酸化炭素の部門別排出量は、全国平均と比較すると、産業部門の比率が低く、運輸部門、民生部門が高くなっており、同部門に対する取組の強化が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
木材生産及び水土保全その他の森林の持つ多面的機能の高度発揮のため、民有林において人工造林、樹下植栽及び保育等の森林整備を実施する。		44ha				
		造林等面積				→
実施主体	県、市町村					
担当部課【連絡先】	農林水産部森林管理課 【098-866-2295】					
		無立木地への造林や複層林整備の実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		造林奨励費							
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
内閣府計上	補助	328,857 (33,821)	261,237 (5,080)	235,958	235,798	248,484	242,084	内閣府計上	R2年度：人工造林及び樹下植栽を20ha実施した。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施した。 R3年度：人工造林及び樹下植栽を22ha実施する。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施する。
予算事業名		県営林造成費(補助事業)							
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
内閣府計上	委託	42,230	26,754	62,710	49,184	45,470	51,042	内閣府計上	R2年度：人工造林及び樹下植栽を3.84ha実施した。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施した。 R3年度：人工造林及び樹下植栽を3.84ha実施する。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施する。

様式1(主な取組)

予算事業名 森林整備交付金事業費							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度：
							一括交付金(ハード)	補助	10,408
予算事業名 県営林造成費(単独事業)							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	R2年度： 国庫補助基準に満たない小面積の保育や補植等を実施した。
							県単等	委託	100

様式1(主な取組)

活動指標名	造林等面積(単年度実績)(ha)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	28	29	35	25	23	44	52.3%	295,952	概ね順調	無立木地への造林や複層林整備を23ha実施し、既存造林地において下刈り449ha、除伐等50haの森林整備を実施した。
活動指標名	下刈り(単年度実績)(ha)				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	542	449	465	414	449		100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 荒廃原野等の要造林箇所への減少や、自然環境への配慮等により伐採面積が減少し再造林が減少した。 しかし、既存の造林地においては、下刈りや除伐等の適切な森林整備を実施したことにより、二酸化炭素吸収機能の他、水源かん養機能や土砂流出防止機能などの森林の持つ公益的機能の発揮に寄与した。
活動指標名	除伐等(単年度実績)(ha)				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	90	138	84	46	50		100.0%			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早生樹種の生育状況の継続調査を実施すると共に、市町村の新規植栽地においても、生長量調査を実施し生育状況確認を行う。</li> <li>・市町村等の事業主体が適切な森林整備が実施できるように造林事業実施基準を策定する。</li> <li>・沖縄県森林作業道作設指針等の制定により、市町村等の事業主体が森林作業道作設やそれに伴う新規事業を実施できるように、森林作業道を補助事業に導入できる体制を整える。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・早生樹種の生育状況について植栽6年目の生長量調査を実施し、県営林において早生樹種の植栽を実施した。また、新規事業において早生樹の母樹林整備や立地環境調査等の事業を実施した。</li> <li>・県担当者、林業普及指導員及び森林資源研究センターと会議等を行い、造林事業実施基準(案)を検討した。</li> <li>・森林作業道の作設に係る課題や要件整理等について、事業主体となる森林組合等と調整を実施した。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの森林整備により森林資源が充実してきており、今後も資源の利用に向けて除伐や間伐等の適切な森林施業を実施していく必要がある。</li><li>・主な事業主体は市町村であることから、事業を計画的に実施していくためには、市町村との連絡調整を緊密に行う必要がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・本県林業の中核的な地域であるやんばる3村(国頭村、大宜味村及び東村)は、現在、世界自然遺産登録に向けた取組が進められていることから、その貴重な自然環境の保全について、より一層の配慮が求められており、環境に配慮した森林施業を推進する必要がある。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・計画的に収穫伐採が実施できない社会情勢を加味して、森林資源の利活用と環境保全の両立を図るため、沖縄に適した資源循環型施業が実現できるよう、早生樹種の造林指針作成に資するための継続的な調査及び新規に植栽導入した市町村へのフォローアップが必要である。
- ・事業主体である市町村において林業技師等がないため、技術的な指導等が必要である。
- ・除伐や間伐等を推進するためには森林作業道等の基盤整備が必要である。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・早生樹種の生育状況の継続調査を実施すると共に、市町村の新規植栽地においても、生長量調査を実施し生育状況確認を行う。
- ・造林補助事業の事業計画の作成において、実効性の高い計画となるよう事業主体への指導を強化する。
- ・市町村等が森林作業道作設やそれに伴う新規事業を実施できるように、森林作業道等を補助に導入できる体制を整える。



様式1(主な取組)

活動指標名	県民の森の維持管理				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	修繕の実施	修繕の実施	修繕の実施	修繕の実施	修繕の実施		100.0%	8,274	順調	県民の森公園内で修繕が必要な箇所(トイレ、浄化槽)について工事を実施し、利用者の安全確保・利便性向上を目指した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習展示館及び森林科学館の大規模改修工事を実施する。また、令和3年度予定の内装展示工事に向け調整等に取り組む。</li> <li>・自然との触れあいを通して森のしくみや役割を身近に感じてもらう体験プログラムを実施する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習展示館及び森林科学館の大規模改修工事を実施中である。また、令和3年度に内装展示リニューアルのための必要な予算を確保した。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で臨時閉園や施設の利用制限を行ったことから、体験プログラムを行うことができなかった。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"><li>・開設から30年以上が経過していることから、施設の老朽化や社会的要請、利用者ニーズの変化により、本来の役割を十分に果たせていない施設もあり、大規模な改修が必要な時期となっている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・やんばる地域の世界自然遺産登録やSDGsの取り組み推進が求められる中、森林や森林の適切な管理への関心が高まっており、林業体験や森林環境教育分野の充実が求められる。</li><li>・新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から施設の利用制限が必要な場合がある。一方で、人が密集しないアウトドア活動に注目が集まっている。</li></ul>

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・施設の多くが老朽化していることから、予防保全を主体とした施設管理を行い、安全性の確保並びに維持管理費用の縮減及び平準化を図り、計画的・効果的な維持管理を行う必要がある。
- ・森林環境教育を提供できる施設として充実させる必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・県民の森公園内で修繕が必要な箇所、利用者の安全確保に必要な場所を優先に整備する。
- ・令和3年度に施設の内装展示工事を実施する。